

初夏の栽培管理

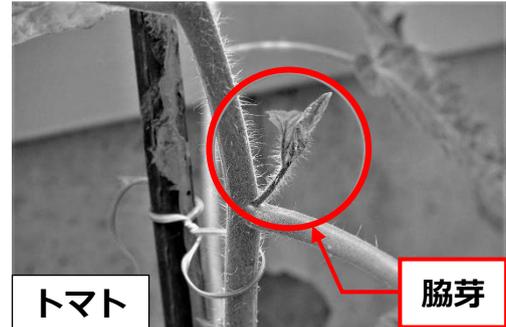
- ・連休後霜もなくなり、4月～5月に植えた野菜がぐんぐん大きくなっています。
基本的なこと覚えておいてほしい事は、
脇芽の処理と中耕・除草・堆肥マルチです。

<5月中旬の作業>

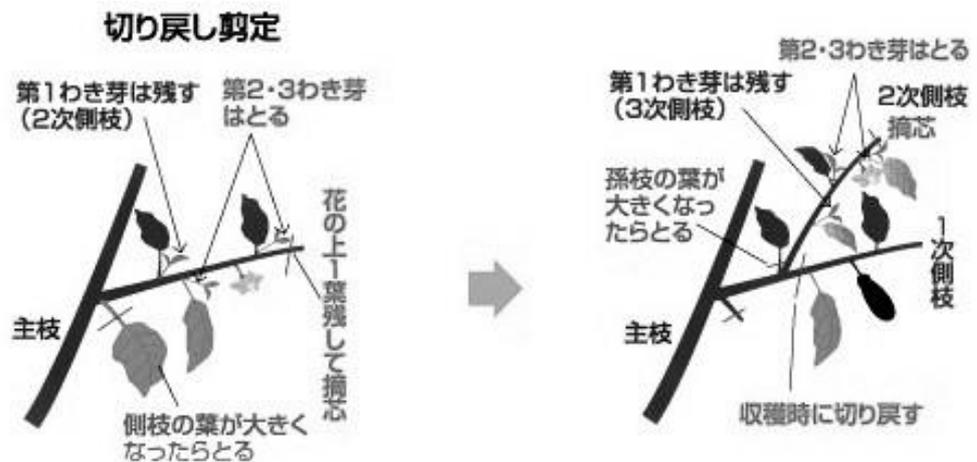
○枝から出てきた脇芽の処理

(晴れた午前中に手で行う!ハサミを使う場合は消毒してから使う!)

- ・トマト: 1本仕立てで各葉から出てくる脇芽は、小さい時に手で折るように脇芽の基部から除去します。



- ・ナス : 一番花の上下ふたつの脇芽を伸ばして3本仕立てにする。
2本立ての場合は、一番花の下の脇芽をひとつ残す。
3本の主枝それぞれからでた脇芽は伸ばします。
それぞれの脇芽の第1番目花先の1葉残し枝先を止めます。
残った葉から出る脇芽は生かして果実を収穫します。



- ・キュウリ: 1本仕立てで5節(葉)までの子づるや雌花は除去します。
6-10節の子づるは葉を1枚残して摘芯し、11節以降の子づるは葉を2枚残し摘芯します。

- ・トマト、キュウリ、ナスの支柱がまだの方は設置を忘れないでください。
- ・香りのある夏野菜のシソ、バジルの種まきやスイカやメロンの苗の定植ができます。

○中耕・除草、堆肥マルチ

- ・定植後1ヶ月を超えると、雨や灌水のため土の表面が締まり、土中の酸素が不足し始めて根張りが悪くなります。

※中耕・除草・堆肥マルチの重要性

そこで畝の草を取り、固くなった畝表面の土をかき混ぜ柔らかくします。(=中耕)株から少し離れた所の根が伸びている所へ必要であれば追肥を行います。更に株元の土の乾燥や固化を防ぎ、地温上昇の軽減を目的に、ワラや堆肥を使ったマルチをすると、夏野菜の根は元気に伸びやすくなります。

○その他

- ・地温が上がり、高温を好む夏野菜の種まきや苗を植えることができます。
- ・この時期からトウモロコシ、大豆の種まき、またサツマイモ、オクラ、ゴーヤなどの苗を植え付けるといいでしょう。
- ・大豆は短日にならないと開花しない品種がありますので(丹波黒など)、枝豆用には日の長さに鈍感な**枝豆用の品種**を選んでください。

○追肥の時期と生育の観察

- ・果実の収穫が近くなり花数が多くなり始めると、株元の葉が黄化し、株の先端が細くなり、頂点にある新芽の伸びが悪く花の位置が新芽に近くなると、そろそろ追肥の時期です。

○第1番目の果実収穫時、順次第2番目以降が着実しているのを確認します。

株から少し離れた溝に以下の量の化成肥料(8-8-8)を2週間ごとに施肥します。

- ・トマト、ピーマン:株あたり2つまみ(6g)
- ・ナス:3つまみ(9g)

又は水1リットル当たり液肥3ccから2ccを溶かします。
(濃度が330倍~500程度)

この液肥を株あたり1リットル程度、灌水を兼ねて追肥します。

○野菜の樹勢が強い、つまり以下のような場合は追肥を遅らせる方がいいです。

トマト:茎径が2cm以上で茎の先端の葉が反り返り(=元肥が多い)、1番目の果実が肥大しない

ナス:第1番目の果実が肥大・伸長せず、果肉が固くゴリゴリした石ナスになる。(=元肥が多い)

キュウリは果実肥大が早く、ピーマンでは花数が多いため追肥を遅らす場面が少ない。

※5月下旬に樹勢が弱く葉の色が黄色く花が落ちる場合は

梅雨で根が弱っている時は追肥をせず、花や果実を除去し根や葉の回復を待ちます。根が丈夫な場合は早い目に追肥を行います。

夏野菜の病害虫の対策

- ・トマト 病気:ウイルス病、アオガレ病、萎凋病は発病すれば株の除去。
害虫:オオタバコガの食害果実は除去。
ハダニ、サビダニ、アブラムシは粘着系(例アーリーセーフ)の農薬。
- ・ナス 病気:アオガレ病、ウイルス病、萎凋病は発病すれば除去。
ウドンコ病は粘着系(例アーリーセーフ)の農薬
害虫:ダニは粘着系(例アーリーセーフ)の農薬。
- ・キュウリ 病気:つる割れ病、斑点細菌病は発病すれば対策なし。
害虫:ウリハムシは、初期は保護キャップか肥料袋で周囲を囲む。
ダニは粘着系の農薬。

6月始め、タマネギ、ジャガイモの収穫後の残渣を除き、次の作付けの準備に入ります。
タマネギやジャガイモは6月に入ると葉が枯れ始めて、嬉しい収穫が始まりそれらの収穫後に、トウモロコシ、サツマイモ、オクラ、ゴーヤの苗の植え付けができます。

- ・6月中旬まで種まきが間に合う野菜は
シソ、キュウリ、エダマメ。
- ・6月中旬まで苗植えが間に合う野菜は
オクラ、トウモロコシ、ニガウリ、サツマイモ、イタリアンパセリです。

- トウモロコシは、雄穂が雌穂より早く熟するため自株での受粉が難しいです。
より受粉を確実にするために多くの株が必要ですので、2条で最低10株以上を植えてください。
- 大豆は短日にならないと花ができなため、枝豆の収穫を目指すなら日の長さに鈍感な枝豆用の品種を選んでください。開花時期から土をカラカラにしないように。

※支柱への苗のくくり方(誘引)

支柱にきつくしめ締めすぎ内容に注意します。。

理由は茎が太くなるので紐の茎への食い込みを防ぐためです。

※暑くなりますので水分補給はこまめにし、疲れれば陰で休憩を!

簡単な施肥量の計り方

堆肥	スコップ1杯	約2kg
苦土石灰	1握り	約40g
化成肥料	1握り	約30g
(その他)	1つまみ	約2g